

・復活主日

泉のほとり

今月の詩編 「第三十一編」

主の慈しみに生きる人はすべて、主を愛せよ。
主は信仰ある人を守り

傲慢な者には厳しく報いられる。



人の代わりに死ぬ

死んだらザロを復活させられた出来事を目撃したユダヤ人の多くが、主イエスを信じました。それを耳にした祭司長たちとファリサイ派の人々は最高法院を招集して「この男は多くのしるしを行っているが、どうすればよいか。このままにしておけば、皆が彼を信じるようになる」と話し合っていました。

「皆がイエスを信じるようになると困る」と言っている彼らは極めて詭弁的な理由を述べています。「ローマ人が来て、我々の神殿も国民も滅ぼしてしまう」と。皆がイエスを信じると、神殿も民も滅びると。方や自分たちは今「神殿、民を守るため」に働き、考えているかのようです。しかし、彼らの真意は人々がイエスに従うと、彼ら自身の教えが否定され、民の間で自分たちの尊厳が失われるからでしょう。

国、民が興されるのも、滅びるのも、神がなさることです。「神の家」はなおさら、その主権は神にあるものではないでしょう。ローマが神の家を滅ぼすことはできないのです。

神殿が、国が滅びないようにとの大義名分のもと、民の指導者たちは実際、イエス・キリストを十字架につけて殺しましたが、皮肉なことにその後、紀元70年に、ローマ人たちが神殿を崩壊し、民も残虐に、残酷なまでに滅びるのでした。それは民の罪と悪ゆえでした。神はこれ以上、ご自分の民によつて、神殿が、ご自分の聖なる御名が汚されるのをお許しにならないかったのです。

「このままだと、皆がイエスを信じるようになる」と言う言葉聞いた当時の大祭司カイアフアは答えて言いました。「あなたがたは何も分かっていない。一人の人間が民の代わりに死に、民全体が減びないで済む方が、あなたがたに好都合だとは考えないのか」と。

使徒ヨハネは「これはカイアフア自身の考えではなく、大祭司であったので、預言したことだ」と発言するのです。預言したと言うのですから、彼から出た言葉ではなく、神から出たものと見たのです。カイアフアの意図はローマに対抗している目

に見えるユダヤ人という民が減びないで済むことを語ったのですが、使徒ヨハネは「主イエスの死がもたらす救い」が大祭司の口を通して語られたと見たのでした。同じ言葉。しかし、違う意味。人は罪の中、悪しき業を企みますが、神はご自分の御業を成し遂げられるのです。悪極まりない中でも、神はご自分の民のために働かれています。

大祭司のあの発言の後、「その日から、彼らはイエスを殺そうとたくらんだ」とあります。また、ファリサイ派の人たちは「イエスの居どころが分かれば届け出よ」と命令を出したようです。イエスを逮捕し、殺す計画が本格的に動き始める。と同時に、天の父は人を罪から救うためになされるその御心も、具体的に、確実に行われていくというのを見るのです。

人は主イエスを十字架に追い込み、十字架につけて殺しましたが、主はご自身を十字架に追いやる人の罪のために、人が、私が自らを改めて救われるようにと、その光の道を開いてくださいました。罪深い人の手にかかり、十字架の上で「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」と主が叫ばれる深い闇の業が続く中、神は人類に最高の道を備えられたのです。

主イエスに従って歩む人たちは、この神のなさる不思議を見て、知るものです。それゆえに、人生のどのような境遇におかれても、この世にあつては十字架のような不当極まりない事柄にあつても、そこにおかれた意味を、その事柄にある神の御心を聞きながら歩めるのです。その中でも、何が人のために良いことか。また人のためになることを聞くのです。見るのです。わが主イエスがそうしてくださいように。

ですから、キリストに結ばれている者は神の御心を行い、落胆しません。人はあらゆることを計画し、悪を企みますが、神の御心のみが実現し、行われるのを信じるのです。人々の目には、ただ苦しみだけ、という時にも、キリストに従う者たちはすべてを知っておられ、一人一人に最善をなさされる神、天の父を見て生きるからです。

2023年度

教 会全体課題

日々聖書に聴き、

御言葉に従って歩む。

2023年度

心に刻む御言葉

生まれたばかりの乳飲み子のように、混じりけのない霊の乳を慕い求めなさい。これを読んで成長し、救われるようになるためです。

(ペテロの手紙一 2章2節)

《今日のお知らせ》

○今日はイースターです。九時三〇分と十一時からの二回礼拝です。

○第二礼拝後、一二時一五分(目途)から地下ホールで短く讚美集会を行います。讚美歌をお持ちの上、ご参加ください。

○二〇二四年度の聖書通読表を準備しました。事務所のカウンターにありますので、是非ご利用ください。

《ぶどうの会より》

第一礼拝後、カナルルームにて第二礼拝の前まで、ぶどうの会を行います。

《教育奉仕委員会より》

第二礼拝後、久しぶりにホール集会を行います。その際、会場準備をお手伝いいただけると助かります。宜しくお願いします。

《手仕事の会 オリーブより》

第一礼拝後、と午後のプログラム後の二回、おなじみのケーキとグッズの販売をいたします。場所は園庭です。お待ちしております。

《ロビーの会より》

第一礼拝後、ロビーにてコーヒーサービス(茶菓付き七〇円)があります。久しぶりですが、今までのコーヒーサービス券もご利用になれます。

《役員会より》

教会員懇談会のお知らせ

・日時 4月7日(日)礼拝後(目途)

(案件をお伝えすることに留めますので、一二時前には終える予定です。)

・場所 地下ホール

・案件 4月総会の準備のため

《今後の予定》

○四月七日 役員任職式

教会員懇談会

○四月九日 附属幼稚園入園式

○四月二二日 定例役員会

《今日の讚美歌》

現代語訳

讚美歌147番

1. 喜びたたえよう 主は死に打ち勝ち
陰府からよみがえられた
ハレルヤ ハレルヤ ハレルヤ
2. 勝利の主を迎えて 賛美の花束を
主の御前に ささげよう
ハレルヤ ハレルヤ ハレルヤ
3. 今日から永遠に 尽きない命は
この世をうるおす
ハレルヤ ハレルヤ ハレルヤ
4. 命の主をほめ みな声を合わせて
この日をたたえよう
ハレルヤ ハレルヤ ハレルヤ

《教会事務所より》

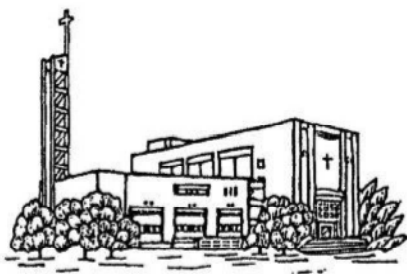
○決算の時期を迎えています。年度内の入金・出金がありましたら、伝票をご記入の上、本日に事務所までお持ちください。

○次週より、本紙三面では宗教改革者ジャン・カルヴァンの著作、『ジュネーブ教会信仰問答』を掲載する予定です。

《次週の礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）
説教 「み言葉が実を結ぶとき」
聖書 マタイ13章1〜8節
説教者 吉村和雄 名誉牧師

●主日礼拝（午前10時30分）
讚美歌 146番 358番
説教 「神の前に正しいかどうか」
聖書 使徒4章1〜22節
説教者 宮間彰広 兄



イースター第一礼拝 (午前9時30分)

讃美歌 II 131番 148番
説教 「死よりも強い神の愛」
聖書 使徒2章22～28節(新約P215)
司式 山下純一兄
聖餐司式 黄允湜 牧師
説教者 吉村和雄 名誉牧師

前奏曲「ハレルヤ、戦い終わりにて」C.モーツ

○ 讃美歌II 131番

1. いざうたえ、たからかによろこびのほめうたを、
あたらしき代を告ぐる 主のよみがえりを。

※ 死のちからうちやぶり、とこしえに勝ちたもう
もろびとよ、よろこべや 主のよみがえりを

※ 繰り返し

2. いざうたえ、たからかによろこびのほめうたを、
死の刺をくだきたる 主のよみがえりを。

※ かぎりなきいのちをば たからかに告げしめせ、
もろびとよ、よろこべや 主のよみがえりを。

※ 繰り返し アーメン

○ 讃美歌148番

1. すくいぬしは ハレルヤ
よみがえりたもう ハレルヤ
かちどきあげて ハレルヤ
み名をたたえよ ハレルヤ。

2. 十字架をしのび ハレルヤ
死にて死にかち ハレルヤ
生きていのちを ハレルヤ
ひとにぞたまう ハレルヤ。

3. 主の死によりて ハレルヤ
すくいはなりぬ ハレルヤ
あまつつかいと ハレルヤ
ともにぞうたわん ハレルヤ

アーメン

聖餐曲「アンダンテ」(ソナタニ短調第3楽章)

F.メンデルスゾーン

後奏曲「フィナーレ」

(シンフォニー第2番ニ長調第4楽章)

C.M.グイドー

イースター第二礼拝 (午前11時)

讃美歌 II 131番 147番
説教 「復活の主に会う」
聖書 ルカ24章13～35節(新約P160)
司式 山下純一兄
聖餐司式 黄允湜 牧師
説教者 黄允湜 牧師

前奏曲「主に神に感謝せん、キリストによりて勝を給う」
(メサイアより)

G.F.ヘンデル

○ 讃美歌II 131番

○ 聖歌隊による讃美

「死の鎖を」(12世紀ドイツ讃美歌)

死の鎖を解き放ちて

救い主イエスこそ

よみがえりましぬ

主よ 憐れみたまえや

よみがえり無くば

なお死せる身を

死に勝ちし主は

生かしめたまえり

主よ 憐れみたまえや

死の鎖を解き放てる

救いのぬしをぞ

我らほめたたえん

ハレルヤ ハレルヤ

○ 讃美歌147番

聖餐曲「アンダンテ」(ソナタニ短調第3楽章)

F.メンデルスゾーン

後奏曲「フィナーレ」

(シンフォニー第2番ニ長調第4楽章)

C.M.グイドー